

午後 2 時 00 分 開会

<敬称略>

渡辺生子（日野図書館分館長）：それでは始めさせていただきます。本日はお忙しい中お集まりいただき、本当にありがとうございました。私は日野図書館の、隣の図書館の分館長の渡辺と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

日野図書館は2年前にリニューアルして、そのときに新選組や日野宿のことがわかる資料をたくさん揃えてきました。だけど、もっともっと多くの人に利用していただきたいなと思ったときに、ただ本を並べて待っているだけではだめなんだ、もっと外へ出てみんなと一緒にやろうじゃないかということで、今回日野宿発見隊ということで、日野の再発見をする活動を昨年からはじめてまいりました。

商店会の会長の滝本さんを初めご近所の谷さんとか、須永さんとか、日野の歴史と民俗の会の皆さんとか、大勢の方に協力いただいて、旧家を訪ねたり、それから子どもの発見隊を開いたりして、いろんな活動をやってきました。このいろんな活動の経験の中ですごく感じたのは、この街の宝は、やっぱり普通の人が生活している、その中にこそあるんだなということを感じました。普通の人たちが大事にしている庭の木であるとか、あるいはおうちにあるお稲荷さんであるとか、それが宝なんだなと思いました。その宝を掘り起こして、次の世代へと橋渡しをしていくことができたらいいいのかななんて私たちは思っております。この間集めてきた写真は本当に多くの皆さんの力を得て集めることができました。改めてここでお礼を申し上げます。ありがとうございました。

今日、その写真を提供していただいた方たちに登場してもらって、日野の昔がどうだったかということをお話させていただきます。私たちはその記録をきちんととって、あるいは写真や録音などで記録をとって、次の世代へと語り継いでいけたら一番いいのではないかと考えておりますので、本日は皆さん自由に発言して、この今の日野を残していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それではよろしくお願いいたします。

司会 石嶋日出男（日野図書館）：皆さんこんにちは。本日司会を務めさせていただきます日野図書館の石嶋と申します。私自身 27 年勤めているわけですがけれども、今日のような試みというのは初めてです。何かと不手際があるかもしれませんが、どうぞよろしくお願いいたします。

早速なのでありますが、これから 2 時間ほど、昭和 30(1955)年前後の写真が中心になりますけれども、日野宿界隈の話の皆様を伺いたしたいと思います。もちろんパネラーの方ばかりでなく、会場の皆様にもぜひいろいろな情報を教えていただきたいと思います。なにとぞよろしくお願いいたします。それでは失礼して、座って進行させてい

たきます。

先月の5月の12日から、今回の写真展「日野宿今・昔」というのを開催しております。画面にも出ておりますけれども、多くの皆様に貴重な写真を提供していただきました。今回の写真展は町並みというのをテーマにしましたので、大変申し訳なかったのですが、展示に至らなかった写真がほとんどです。ただし提供いただいた写真は図書館の方でやらせていただいて、パソコンに取り込み、日野宿の貴重な資料として整理していますのでお許してください。

今回の座談会も、本来ならば皆さん全員にパネラーになっていただきたいところでしたけれども、お体の具合とかお仕事の関係を考えて、本日は撮影者である、こちらから**真野保**（まのたもつ）さん、**松本保**（まつもとたもつ）さん、**山本豊**（やまもとゆたか）さん、そしてとても残念なのですが、すでに他界されております志村章さんの長女**志村摩智子**（しむらまちこ）さん、大門橋の銘版の拓本を提供していただいた**猪鼻洋助**（いのはなようすけ）さん、そしてわが日野宿発見隊の強力なメンバーであります**谷享司**さん（たにきょうじ）さんの6名の方にお出でいただいております。よろしくお願いいたします。

まず初めに、お一人ずつ写真を提供していただいた方から、撮られた当時のお歳とか、当時のお仕事、なぜこうした写真を撮ろうとなさったのかなどについて、大変申し訳ありませんけれども2、3分ほどでお話いただきたいと思います。まず真野さんからよろしくお願いいたします。

真野保（森町）：ご紹介を受けました真野でございます。恐らくこの中では一番私が年上だろうと思います。大正13(1924)年の83歳でございます。こういう機会を与えていただきまして、私の生きている間にいい思い出という形で、感謝申し上げたいと思います。

実は、この通り、甲州街道が砂利道だったということ覚えていらっしゃる方、おそらくいらっしゃらないんじゃないかと思いますが、私は小学校のときにこの砂利道で兄と自転車を乗り回したことを覚えております。非常に古いまちだったものですから、このようなことを思い出の中に浮かべながら、今日の「日野のむかしを語り合おう」という形の会に出席させていただいて、私の持っている限りの資料を基にご説明申し上げたいと思います。よろしくお願いいたします。





松本保（北原）：松本です。私は昭和 7（1932）年生まれで、

ことし 75 歳です。この写真が昭和 26（1951）年に撮ったものなのですが、たまたま私、今はコニカミノルタ、前はサクラ小西六写真工業、そこに行っていた関係で、各部署にカメラがありまして、当然フィルムをつくっていましたので、休みとか何かにかメラを貸していただきまして、それでどこかへ行くときには撮ったり何かして、たまたま日野町を撮ってみようと。

どういふふうにかもう忘れましたが、36 枚撮りを撮りまして、日野町じゅうを撮った写真の一部が、大昌寺山から撮った日野町の全図というのがね、まあ 3 人ばかり撮った方がおられますけれども。それで日野町も、日野駅とか日野橋とか、日野坂から日野の駅の方、あるいは日野の警察署、あと日野の小学校、豊田の小学校。たまたま豊田の駅がちょうどフィルムが最後で半分ぐらいきり写ってないのがありますけれども。

そんなのを撮って、一通り焼いて持っていたんですけど、どこかへいっちゃって、たまたま定年になったときに、じゃ何とかしてみようと思って 1 冊にまとめて、何枚かいいやつをまとめたんですけど。今、ネガなんていうのはちゃんとケースがありまして、それに入っているんですけども、昔はそんなものないから紙へぐるぐるっとフィルムをまとめたやつで、フィルムがくっついちゃったり何かしたり、完全なやつではなく、雨が降ったようなネガになっちゃっているのもあります。それを全部自分で現像から焼付けまでして。それでこの写真はたまたま、今は何というのかな、前の「ふるさと博物館」で、こういうのがあるんだけどどうだんべということで、焼いてもらったやつを貼り付けてあるんであります。そんなことで、どういうあれで撮ったかはちょっとわかりませんが、そういうようなわけでございます。よろしくお願ひします。

志村磨智子（森町）：父、志村章は大正 4（1915）年生まれの、

平成 6（1994）年 80 歳で亡くなって、今現在生きていれば 93 歳になります。それで父の経歴は、以前コニカミノルタ六桜社というところに勤めておりまして、フィルム関係でしたので、その点フィルムは自由に撮れたんだと思います。そして写真の一部は自宅でも現像していた覚えがありまして、台所を暗くして、暗室にして、写真を現像していたような覚えが 1、2 回あります。



撮った意図とか、写真の意図はあまりよくわからないのですが、私たち記念写真はあまり撮られてないんですね。それでいつも町並みとか後姿とか、そういう私自身に関係ないような写真ばかりでしたので、あまり父の写真は興味がなかったんです。それで自然自然と箱の中にたまっているのが、現在あるものの一部です。ほかのことは小さいときのことなのでよく覚えてないので、皆さんの方がご存じだと思うので、一緒に発見したいと思います。よろしくお願ひします。



猪鼻洋助（仲町）：どうも、猪鼻と申します。私は昭和

16(1941)年生まれ。現在日野本陣の隣で自転車屋を営んでおるんですけどね。お父さんが昭和5(1930)年に今の日野警察のところで商売を始めまして、私の記憶に残っているのは、この仲町に来た昭和22(1947)年以後の記憶だと思うんですが、私の記憶を呼び起こしながら、また本日わかることはお話ししたいと思っております。どうかよろしくお願いいたします。

す。簡単ですが。

山本豊（森町）：山本です。僕は昭和6(1931)年の3月

に生まれまして、小学校、それからずっとここに住んでおりますので、勤めている関係であまりまちのこともよくわかってないような、わかっているような、変な状態なんですけれども、写真も自分で撮ったと記憶があるんですけれども、お祭りのときに撮ったような気がするんで、そんなような写真しか出してなかったんで、写真提供者なんていわれるほどの者じゃなかったんですけれども、わかる範囲でまたよろしくお話ししたいと思います。



司会：それでは最後に「日野宿発見隊」として、今回の企画についてもいろいろアドバイスをくださった、谷さんから一言お願いいたします。



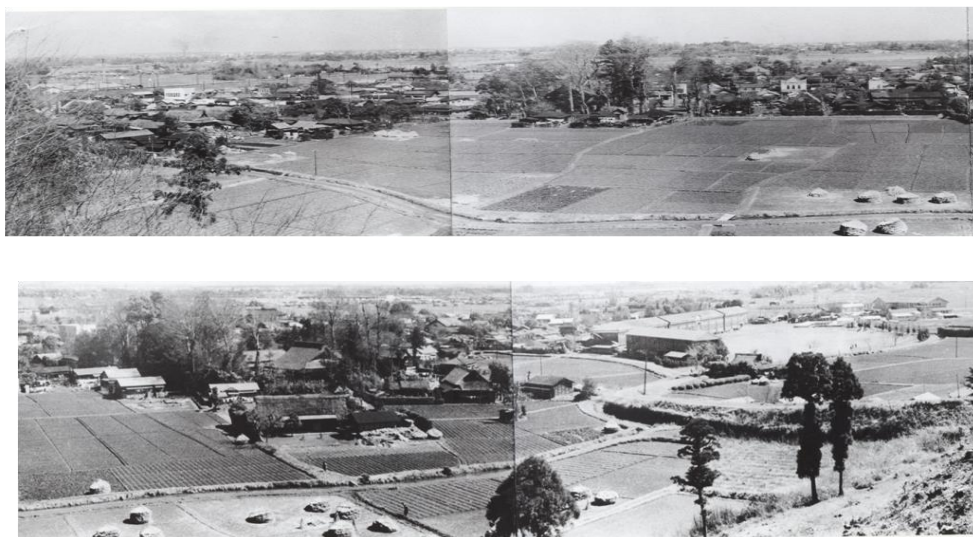
谷享司（仲町）：ほとんどの方が知っていると思います。

谷と申します。図書館の方々にいろんな企画もので相談を受けまして、「日野宿発見隊」というのをやるんですけれども何をしたらいいだろうか、ということをお聞きしまして、一番最初この仲町の町並み、日野宿の町並みを何年ごとっていうんですか、明治の町並みであるとか、大正の町並みであるとか、昭和の町並みであるとかを、何とか復元できないかというような企画をお持ちだったんですね。ただその、年代的にも詳しく調べるというのは非常に難しいものがありまして、一番今記憶にある部分というと、やはり昭和20年代、30年代というのがぎりぎりのところ、生の声を聞けるぎりぎりの範囲だと思えました。

それで今回そういう企画をさせていただいたんですけども、正直言いまして昭和30年前後といいますと、私、存在がありませんので、確信的な話はできませんので、今日は皆さんのお話を伺って、生まれた当時じゃないけど、生まれるちょっと前のこの仲町であったり、甲州街道のことを勉強させていただきたいと思っております。よろしくお話しします。

司会：ありがとうございました。それではこれから実際写真を見ていただきながら、お話を進めていきたいと思えます。お手元に、小さくて見づらいかもしれませんが、プリントを用意いたしました。まずその中から街のパノラマ写真をもとにお話を、説明させていただきます。西は日野駅付近から東は一小あたりを映した写真です。配布資料ですと<写真 11><写真 12>、ちょっとめくっていただいで中になるんですが、<写真 11><写真 12><写真 13><写真 15>。あと志村さんの写された<写真 14>になります。

<写真 11>



大昌寺山から八坂神社、大昌寺、日野小を望む1951
昭和 31(1956)年 真野保氏撮影

<写真 12>



大昌寺山から八坂神社を望む
左後方に日野鉄橋、多摩川
撮影年不明 竹間愛子氏所蔵

<写真 13>



大昌寺山から八坂神社、大昌寺、日野小を望む1951
昭和 26(1951)年 松本保氏撮影

<写真 15>



大昌寺山から一小、日野消防署、日野役場、オリエント工場を望む1960
上空に返還前の立川基地に着陸態勢の米軍機
昭和 35(1960)年 戸高要氏撮影



<写真 14>

大昌寺山から一小方面を望む1956
昭和 31(1956)年 志村章氏撮影

こちらが、ちょっと順番が申し訳ありません、<写真 12><写真 13>とこういくんですけれども、まず<写真 12>の方からちょっと見ていただきたいんですが、これは竹間（ちくま）愛子さんからお借りした写真なんですけれども、<写真 12>です。これを見ますと、おわかりになりますかね、このところですか。このところに真野さんのお宅がないんです。はい。それで下佐藤の佐藤福子さんに今、下佐藤でお持ちになっている明治の写真というのがあるんですけれども、それよりは新しい。でも松本さんが撮られた写真よりは古いんじゃないかということなんです。で、真野さんにちょっとお聞きしたいんですけれども、この辺に、いわゆる八坂さんの後ろに移られたのは何年ごろだったんでしょうか。神社の裏に。

真野：ええと、私もよく覚えてないんですが、確か昭和の、池田さんご存じですかね。

池田孝行（仲町）：私は昭和 13(1938)年だからね、でもあんなお堀があったね、まだね。

真野：今の私の家の、神社の裏にございますけれども、その前に建ってた家っていうのが昭和一桁台の建築だと思います。それでちょっと年数がわからないのですが、私たちは結婚して現在のところに住んでいるんですが、神社の左側、森の左側に今は花輪病院がございます。で、ここが私の家だったんです。

それで父が市役所に勤めていた関係上、私ごとで申し訳ないんですが、日野にいいお医者さんを招こうということで、今の花輪先生、もう大先生なんですけれども、その先生にお話して、私たちの神社の左側の土地と家を全部花輪先生にお渡しして、バスター制で私どもは今の栄町、西町に移りました。それで花輪先生、まだ大学を卒業されて間もなくのころだったんですけれども、日野に移転していただいて今の花輪病院をつくったわけです。

そこにエピソードございますけれども、私の父に「花輪病院という名前はあまりよくないよね」という形で、父に相談して何かいい名前を、病院の名前をつけたいと言いましたら、父が「花輪はおめでたいときも出すじゃないか。お葬式の時だけじゃない」という形で、そのまま花輪病院という名前にしたわけです。それが現在です。お答えになったかどうかわかりませんが、すみません。

司会：ありがとうございます。松本さん、真野さんなんですけど、このこちら、<写真 13>と<写真 11>ですね。<写真 11>が真野さんで松本さんが<写真 13>なんですけども、この写真というのはどのあたりから写されたのか、ちょっとそのことを松本さんからお話いただけますか。

松本：大昌寺山、そこにも書いてあるとおり大昌寺山から撮ったんですけど、あれ、何で大昌寺山というのかちょっと不思議なんですよね。あそこ宝泉寺の地所なんですよ。だけど撮った場所というのは今、あそこに日野市の慰霊塔がありまして、あそこに御野立場、昔御野立場といいまして、大正 12、3(1923、24)年ですか、あそこに書いてありますけど、昭和天皇が摂政のころ陸軍大演習があつて、そのころにあそこが陣地というか大本営っていうのかね。それで天皇陛下が野に立ったということでらしいんですけど、その辺ももっと詳しい人がいるかもわからないですけども。それで今市役所通りのところに「御駒止之松」というのがあって、あそこで馬をとめて、それから歩いてきたというような話を聞いていまして。それで、もう 20 年ぐらい前かな。その大演習、すごい大演習だったらしいんですね。村山の方から何か兵隊が、この日野の大昌寺山へ攻めてきたというような想定でやったとかという話も、聞いたことが

あります。あそこに石があるところから撮って、それで今その、真野さんのことなんですけれども、あそこに真野さんが来る前に大塚さん。

真野：ああそれは隣です。私のうちの隣。

松本：それで花輪さんが要するにきた時点からが問題になってくるんじゃないかと思うんだけど。で、花輪さんへ私が初めてかかったのは、これがまた変な話なんですけどね。多摩川へ流し針という、夜ウナギやナマズをとるために、夜大きい針にミミズをつけて、それを多摩川の中に投げ込んでおいて、それであしたの朝取りに行くんですけれども、そのときに、そうですね5メートルぐらいの横の、両側に石をしばり付けて、それでところどころへその針を付けておいて、それをこう投げ込むわけです。そのときに一番手前の針がここへ刺さっちゃった。それでうちへ帰ると怒られるから、みんなに抜いてくれと言ったけどあごがあるために取れない。それであの花輪さんに行って初めて、切って抜いたかどうしたかその辺はわからないんですけども、その思いがあるから多分戦後、あるいは戦時中か戦後、その辺じゃないかと思うんですけどね。花輪さんが真野さんのあそこにきたのは。どうですか。そんなところなんです。

司会：はい、ありがとうございます。なかなか面白いお話なんですけど。

真野：今お話に出ておりました流し針の話なんですけど、実は四ツ谷、今のあそこは栄町になりますかね。四ツ谷の部落は昔からウナギを食べてはいけないというふうに言われて、何かあそこの町の、神社のご神体か何かがウナギに乗って多摩川に流れてきたということで、ウナギを食べてはいけないということで、あそこの多摩川のそばに川が流れています。ここにウナギがたくさんいたんです。四ツ谷の部落の人が食べませんから、とらないんですね。で、私も流し針をかけては毎朝ウナギをとりに行きました。そんなような形でウナギの思い出というのは今も食べながら、申し訳ないなというふうに思いながら食べております。何か、山本さん。

山本：今の話なんですけども、確か僕なんかも、流し針も自分たちもやっていたんですけど、権現堀といったんじゃないですか。そこにたくさんウナギがいたんです。それで台風か何かの大水のとくに、ウナギが堤防を守ってくれたというので、今の土地があるんだよということで、ウナギを食べなくなったという話は聞いておりますけれども、それが本当かな、どうかなというんですけど、いかがでしょうかね。ですからウナギと、それからドジョウや何かも大分、毎朝ドジョウをとりに行った覚えがあります。

谷：実はうちのお袋は四ツ谷の出なんですけれども。それで、当然子どもの頃に四ツ谷の人はウナギを食べないっていう話を聞いていたので、うちの親も食べないと思っていたんですね。そうしたら意表をついてうちの親は平気で食べてましたから。で、

何でかって聞いたんですよ。そうしたら四ツ谷でも食べないのはごく一部の人なんです。これは今の四ツ谷道を入れてガードをくぐっていくと、消防小屋がありますよね。あそこから多摩川の方に向かった、あの辺が決壊しそうになったときの話で、ウナギを食わなくなったという話があるらしいですよ。ですから東光寺よりの人はウナギを食べたというんです。そこから下の人がウナギを食べないっていうんですけど、その辺確証のある人いますか。

池田：あとはね、聞いたことではオオマンドジョウっていうでしょ。これをオオマンドジョウだって言って食えば別にウナギじゃないんですよ。あとヤツメウナギ。ウナギっていうといけないんだって、四ツ谷の人。だからね、四ツ谷で大正時代に生まれた人に何でお前、ウナギ食わないのって言ったら、一応決めがあるからね、と言われたの。どうしたの、何で食うんだよと言ったら、うん、オオマンドジョウって思えば何でもいいんだよって。

真野：今でも食べてないんですか。

池田：いや、食べてる人いるよ。中にはだから、俺は絶対食えないから、業界なんかに行ったときに、じゃ、今日ウナギとろうかと言うと、いや、俺天井にするという人もいます。四ツ谷の人でね。

山崎有実子（栄町）：川沿いの人は今も食べると思いますよ。

司会：すみません、私も 20 年ぐらい四ツ谷にいるんですけど、食べてます。申し訳ありません。

池田：四ツ谷でも天野とか、ほら、何ていうの、古い人は食わないんですよ。昔からいた人というのは。

松本：谷さんが言うように、消防小屋から多摩川へ向かったあそこへ、あれ加藤一族が全部なんだよ、大体。だから加藤一族が食わないのか。だから四ツ谷っていうくらいで、加藤、天野だけ、4 軒旧家がありますね。だからその人たちが食べないんで、やっぱり分家とか何かになった場合にはもう食うんだよ。

谷：加藤さんの通りの裏側が小島、うちのお袋の実家なんです。その隣が小峯さんなんですけど、小峯さんは食べてますよね。

松本：じゃああの道沿いだ。加藤だ、大体。

谷：小峯さんはオオマンドジョウって言って。

司会：ありがとうございます。ちょっと四ツ谷の方に話が。すみません、実はですね、真野さんと松本さんに大昌寺山とか、そういう話をお話したのは、大昌寺坂というものなんですけれども、今回私、調査を始めて、すごくその大昌寺山とか大昌寺坂というのが、この辺の人にとってもキーワードと言うのか、なっているんじゃないかと。というのは今日戸高さんはお出でいただいてないんですけれども、戸高さんは油絵を描かれておまして、この大昌寺山、大昌寺坂を描かれたものがあるんです。戸高さんにお聞きすると、それが原風景だとおっしゃったんですね。四ツ谷ほどではないかもしれないんですけれども、皆さんにとってその大昌寺山とか、大昌寺坂に関して、エピソードというか、何かお聞かせいただければと思うのですが、どうでしょうか。

真野：大昌寺山は一番右に、あそこに大昌寺がございますね。ここからとったんじゃないかと思えますけど。

松本：これが大昌寺山でしょ。

真野：ええ、そうですね。一小の横に大昌寺というお寺がございますよね。そこです。そこからの、その前が山下ですから、ここからとったんじゃないかと思えますけども。まあ通称なんでしょうね。それから写真の説明をさせていただきますと、前に稲邑があります。そのそばを川が流れております。この川は、私たちは蛍狩りをした思い出がございます。それからフナがたくさんいまして、昔でいうブツタイ、網で、竹で編んだカゴでもってフナをとったことを覚えております。で、ここの、毎晩夏になりますと蛍がたくさん出るものですから、親に連れられてここの道で蛍狩りをいたしました。

それからもう少し大きくなってから、私たちの子どもを連れて、ちょっと大きな木が生えておりますけれども、ここの辺では沢蟹だとか、それから蝶等、昆虫採集をした覚えもがございます。それからもう1つ、ちょっと神社からずっと道が見えますけれども、その道の一番右の端、そこですね。ここが松本さん、今も松本さんの家なんですけど、ここに水車小屋がございました。ここにも、私たちの家と神社の間は川が流れておまして、この川にもかなりコイやフナがいまして、この水車小屋の中へ魚が、それと水車小屋の下というのはかなり深かったものですから、入ってはいけないと怒られながら魚とりをした覚えはございます。

司会：ありがとうございます。実はこの大昌寺山の次に用水のことをお話していたかどうかと思ったら、今、真野さんからお話いただいたので、ちょっともう1つ見ていただきたいのがこの<写真 5>ですね。これが、遠くにこう見えますけれども、これが日野駅のホームですね。で、そこからこちらが宝泉寺ですね。で、ずっとこう

行きました、実はこういう写真いただいて、今はどうなっているのかってことを探したりしているんです。それでちょっと飛ばしますけれども、なかなか今の写真が、これですね。これが今の、本当はもうちょっと手前の方に来るんですけれども、そうしますと、何だか写真撮りに行ったら、電話工事のおじさんに「高いところから日野のプラットホームが見えますか」と言ったら「見えない」というので、じゃしょうがないからというのでこれは神明の坂下、降りてきたところですか、そこから、あ、ホームが写ってるという感じで、これでよしとしたんですけれども、こんなふうに今変わってしまったんです。で、この右側の方がいなげやさんのある方でよろしいんですけど。そうですね。というような写真があります。もうちょっと、実は違うんですけど勘弁してください。



<写真 5>

山下堀から宝泉寺方面を望む 上野動物園校外見学の朝-八坂神社裏用水
昭和 31(1956)年 志村章氏撮影



<写真 86>

用水ということで今話が出ましたので、見ていただきたいのがこれ<写真 86>なんです。これは志村さんのお父様がお撮りになっているんですけれども、この場所をちょっと見ていただいてどの辺かをご説明していただけますか。

山本：大昌寺の手前じゃないですか。松本水車の手前のところ。あの橋があったじゃない。

松本：あんな橋かい？あんなしっかりした橋？

志村：そうだね、あったよね。

池田：灸点所の前の。立川さんの前あたり。

山本：あれが、右側の方が大昌寺で、こっちが灸点所か何かあった？

谷：右側がお灸屋さんがあって、そこが。

真野：ああ、わかった。

谷：道が交錯するんですよ。用水が右側になった
ときが八坂神社側で、用水が左にあるときが、この
橋からこっち側の方はもう仲町の方に入ってくると
思います。あそこへ行かないで。

司会：で、今の写真をこんな感じかなと思って撮
ったんですけど。



谷：え、行きすぎだよ。こっちからもっと手前、あのポールがあるでしょ、今。ち
ょうどあそこに。あの後ろの。今、だから ある道。そこら辺に川が、橋がこう架か
ってる。

松本：川は今あるんでしょう？

真野：今この写真は右に松本水車があって、その先が大昌寺なんですよね。それで
この道はちょっと
左へふれてます。で、私たちはここで泳いだんです。それからたらいを浮かべて。で、
この橋がじゃまで、頭がつかえちゃうんですよ。そんなような思いもございます。
これ、右が松本水車、この道は左へ少しふれて行って、その先右側が大昌寺。こうい
う。

司会：これ、八坂なんです。というのは。

山本：八坂神社。

真野：八坂？これが八坂ですか、そうすると左が私の家という形。

奈加島啓史（栄町）：じゃあこれはフィルムを逆に焼いたんじゃない？

真野：勘違いしました。この橋はこの川を道にするために全部取り外しましたけれ
ども、その辺の工事の内容は覚えております。

松本：あの家はどこなのか、右側の。

司会：これは釣具屋さん。

松本：誰、どこ？

谷：井出さんとかその辺かもしれない。

松本：この家、どこの家？

池田：堤さんです。

谷：井出さんとかその辺の家かも。

司会：これが堤さんじゃないかという情報もあるんですけど。

池田：堤さんの家があったんだ、あそこに。それであの奥の方に日盛俱樂部があつて。

松本：ええ？

山本：日盛俱樂部はもっと手前のところでしょう。左側のね。

司会：それではちょっとすみません。これの反対側を写した写真とか、ほかの用水を見ますので。〈写真 187〉、これ皆さんからお預かりした写真、今 200 点ぐらいあるんですけど、その中にこういうのがあるんです。これは戸高さんが撮られた写真なんですけど、この橋がさっきの橋で、これが大昌寺。ここが日野灸点所というような。それで先ほどの写真と一対になるということで。板塀がここにある。



〈写真 187〉

裏の川(大昌寺西)1962頃
昭和 37(1962)年頃
戸高要氏撮影



〈写真 61〉

加組少年団1941
昭和 16(1941)年撮影
山本豊氏所蔵

そしてもう1つこれ(〈写真 61〉)は山本さんからお借りした、ちょっと昭和 30 年代ではないんですけども、これが面白いんですね。この中に写っているという加

組の方がいらっしゃれば最高なんですけれども。昭和 16(1941)年です。

真野：これは八坂神社ですね。

司会：これが日露戦役記念碑で、今は矢の山公園に移されているという。で、この写真を撮るのに苦労したんですけど、これは違えますかね。山本さん。

山本：そうですね、それでいいんです。

司会：鳥居がここへ写っているんですよ。で、こんな感じなんですけど。

真野：そんな感じですね。

司会：これは山本さんはお写りになっているんですよ。

松本：山本さんが写ってるの？これ。

山本：写ってるよ。

松本：じゃあ高等科ぐらいか、もう。

山本：石坂さんだとか、3番目ぐらいが石坂さん、石坂のお菓子屋さん。それからね。

松本：それじゃ同級生じゃないや。少年団か。

池田：子供会じゃないの。

松本：少年団だよ。昔は少年団って言ったの。

司会：実はこの前に流れているのが用水なんです。それでこの用水を山本さんは大川とおっしゃっているんですが、ほかの地区の方は裏の川とおっしゃっているんですけど。

池田：多分その辺はみなみうらって言ったの。

山本：南裏（みなみうら）ね。

松本：南裏だよ。

谷：でもそうすると、あの慰霊碑が建ってる位置というのは、ちょうど今の社務所が建ってる神社でいうと一番右端ぐらいの位置。

松本：川ってというのは。裏を通ってるの？

志村：裏にあった。

真野：先ほど差し上げた写真がございましたね。

谷：南側をとおっているから。

松本：もう全部ないね。これ何、裏から撮ったの？裏から。ああ、神社の境内から撮ったんじゃないんだ。鳥居があるんだから。

司会：ちょっとよろしいですか。今、真野さんが今日お持ちいただいた写真が、ちょうどその本殿の、今写っている前に。

真野：これは昭和 39(1964)年に撮った写真ですけれども、目的はこの木を撮ろうとして撮ったんですが、建替え前の神社の建物が写っております。ちょうどこの位置だと思います。ちょうどあの大きな木の、木がこれだろうと思います。

松本：じゃあ参道の方から撮ったんだ。鳥居があそこにあるんじゃない。

司会：それではこの写真についてというか、用水についてはこの辺で終わらせていただきます。

それで次にちょっとこれ、今消しますのでお待ちください。この次がいよいよこちらの戸高さんがお撮りになった、この甲州街道の南側の町並みということで、＜写真 1＞です。裏側になりますけれども、このパノラマ写真をもとに、皆様にちょっとお話を伺わせていただきたいと思います。戸高要（とだかもとむ）さんは屋号で言いますと佐野屋さんとおっしゃいます。この写真はちょうど二十歳ぐらいのときに撮られたということです。お兄さんがいらっしゃるんですが、お兄さんのカメラを借りて、フィルムもごく限られた中でこういう写真をお撮りになったということです。戸高さんが風景写真をお撮りになってくださったので、この南側の部分については、こういう形で皆さんに見ていただくことができるんですが、残念なことに北側は、扇屋さん、市長さんのあれですね。扇屋さんとその先に天野魚店さんでよろしいんですかね、が写っているくらいなんです。今日参加されている方の中に、この北側の写真があるという方がいらっしゃればすごく、最高なんですけれども、難しいようです。

< 写真 1 >



現在の日野本町二丁目交差点付近から甲州街道南側の町並み1960
昭和 35(1960)年 戸高要氏撮影

それでこの写真を見ていただくと、いろいろな情報が盛り込まれているんじゃないかと。お店のこと、先ほど言いました屋号、あと仲町とか加組とかの町名ですね。隣組なんかということも考えられると思うのですが、皆さん、写真展を見ていただくとおわかりになるのですが、戸高さんは絵をお描きになるので、大門橋とか大門通りのスケッチを、すごく細かいスケッチをお描きいただいているのですが、そういうのをごらんいただいて、皆さんの遠い記憶を呼び戻してくれたんじゃないかと思います。そこで皆さんの記憶の中に、子どもたちの縄張りとか、隣組のお婆さんの顔とか、声とか人情とか、そういったことについてちょっと、パネラーの方からお話をしていただければと思うのですが。よろしいですか。

もし、参加している方で、仲町の出身の方というのはいらっしゃいますよね。じゃあぜひお話いただきたいと思うんですけど。よろしくお願ひします。というか、これを皆さんご存知でしょうか。『私たちの町仲町』、昭和 56(1981)年に仲町の子供会から発行されているんですけど、谷さんのお父さんの春雄さんなんかの名前が出ております。編集に関わられたんだと思うんですけど、これがすごくこう、いろんな情報が盛り込まれているんですけど、佐藤さんからちょっとコメントしていただければありがたいんですけども。

佐藤元雄 (仲町) : 突然な指名で。私はこの写真でいうと、佐藤って書いてある藤屋です。今横の方にちょっと、先があるんですけども、鑰屋さんの隣の佐藤という。子どものころとか、今考えてみるとこういう写真というものを撮っておくということは大変すばらしいことで、今自分なりに考えてみますと、30年、40年前にこういうものを撮っておけば非常にいいのかなというふう感じて。建物だけは非常に古いんですけど、何も無いというような今、現状でございます。

ただ記憶としては、僕の小さいころには、ここはレンガの敷石だったですかね。それでそれを子どもの頃、何段で相手の北側にいけるかというような形でやった記憶があったり、子どもの頃の思い出としては、あとはもう、何というんですか、ロケットを、花火を上を上げて、下に落ちてくるとパンと鳴るやつをよくやったような記憶がございます。あまりどんなこと、こんなことということでとりとめのない話でございますけれども、あまり記憶はないので、今日もここへ来たのはどんなふうという自分のイメージを、記憶をよみがえらせるような形で来たような感じでございまして、

お話がなかなかできないものですが。ただあとここでちょっと感じるのは、昔はずっと馬場さん、市長さんのところから、ここへきてから有山さんだとか、ずっと昔の門がある家がずっと続いてたんですけれども、それがちょっとなくなっちゃってるといような感じがしております。

何かするともない話で、急にされたのでちょっと戸惑っているのですが、そんな状況でございます。何か質問があれば答えるという方がいいのかなという感じがしておりますけれども。

池田：南側の町並みはあるけれども、北側の町並みはないといいましたよね。大体私の記憶だとかなりわかっているんですよ。今の図書館のところ有山さんで、門構えで、その隣に今もその真正面だけ伊藤書店がある。その隣に佐藤さんの床屋があった。その隣が今のこのざる屋の井上仲治さん。その隣が中島コーキーさんといって、雑貨屋、その隣にこの中島さんね。で、猪鼻さんはその向こうから来たときに中島さんのところに店を張ったわけですよ。角へ。その角というのはね、そこに出す人というのは皆出世しているんですよ。その隣が昭文堂さんです。それでそのあとは林さん、お寿司屋さんがあって、その向こうに竹屋のお茶屋さんがあったんです。その先に、あとは農家で、古谷剛次郎さんの隣に萩原さんがあって、その隣、太郎さんの、古谷剛次郎さんの隣が、古谷太郎さんのお母さんがお店をやられてたの。塩だとか、味噌だとかいろんなもの。で、太郎さんのお嫁さんが美容室をつくったんです、その隣に。その隣に井上って、斉藤さんの肉屋があるの。その隣に小林さんがあって、その隣が鈴藤さん。だからかなりそこをずっと行くんだよね。その一番キリが高木さんこの歯医者さんで。



佐藤：あとはあまり関係ない話かも知れませんが、私が子どもの頃よく覚えていたのは、仲町というかこの本町は日野の一番発祥で、よく町長選なんかをやる時は、一番ここがスタートだったんですね。で、両陣営がありまして、うちの前が大体柏屋さんという昔、旅館をやっていたんですけれども、そのところに相手側が立ち、うちの方が上佐藤とうちとの方に片一方の人が立って、それが一番先のスタートで、よくうちの門を開けて陣営が張って、向こうを柏屋さんだとか有山さんのところ

に張って、そこが町長選の、私が子どもの頃はずっとスタートのような気がして、いつもそんなことでがやがやがやがややっていた記憶があります。

真野：風間製麺所というのはいつごろなくなったんですか。

池田：風間さんはだいぶ前からいたんだよね。

真野：私なんかもこの風間製麺所へはよく買いに行かされました。まだスーパーとかありませんでしたから、夕飯というとおそばかうどんかという形で、ここまでよく買いに行かされました。そんなことを。

池田：あとは斎野さんというのはここにいたんですよ。中島さんの裏の方の。

真野：斎野先生。

池田：それで生沼久作さんが町長に出るときに、豊田の山崎さんとかそれが出ちゃって、それで斎野さんが出て、斎野さんが受かっちゃったの。それからずっと斎野さんの政権があって、そのあと天野さんが出たんですね。天野敬さんもうまくいかないで、それで古谷太郎になって、それでまた変わったんですよ。

司会：ありがとうございます。猪鼻さんはこの時代、何かちょっとお願いできますか。

猪鼻：この写真でちょっとご説明いたします。近所付き合いというのは、うちの方は上佐藤と藤屋さんの屋敷内で10軒ぐらいの所帯があったもので、この2軒の敷地内の人で1組。それで現在は谷さんのところを含めて、こちらの青林堂さん、小池さん、それからその裏へずっといって、やっと14軒で編成して、1つの自治会の役員になって、1組に。3組が一緒になって14軒。こんなような現在は、自治会の編成自体もそんなように変わって。昔、昭和30年代は藤屋さんの屋敷と、上佐藤の屋敷だけで12軒ぐらいの所帯があったもので、それで1つのお付き合い。だから冠婚葬祭はこの2軒の屋敷内だけでいろんなことをやっていたんですけども、今3つのグループが一緒になってやっているんですけどね、冠婚葬祭に関しては昔のままのお付き合いで、現在4軒ですかね。そんなように少なくなっちゃっているのが現在の状況ですね。

司会：この大門通りってありますよね。なぜ大門通りという呼び名がついたのかについてちょっと。

猪鼻：まあ多分私のこれ、推測なんですけどね。この平屋の青林堂さんという菓子屋の角に、今そこの川崎街道入り口の石があったというのが、私、子供心に覚えてい

るんですよ。先日ちょっと市内の案内ということで、いつごろこの石をどかしたのかなとご当主に聞きに行ったら、あったっていうのはご当主もわかっているんだけど、移動したのがいつごろかわからないということで、現在建っている川崎街道の入り口の、古谷さんのところにちょっと聞きに行ってみたら、古谷さんは昭和8(1933)年生まれで、多分松本さんなんかと同じぐらいで、古谷さんが小学校の6年ぐらいのときにあの石の上で紙芝居を見たことがあるからということで。小学校6年というと昭和23(1948)年ごろになるんですか。多分だからそのころ移動して。で、今3つに多分欠けてると思うんですけどね、あれは関東大震災のときに石が倒れて、それで欠けたんだってお父さんが話してくれたなんていう話もしてくれましてね。(注:この石碑の移設した時期については、大正13(1924)年から昭和初年にかけて昭和横町(現川崎街道入口付近)ができたときとの説もある。<『私たちの町仲町』より>)

大門の入り口ということで、多分私が思うのには、八王子の方から高幡へお参りに来るのにはあそこへ入る入り口だったもので、多分その関係で大門と言われているんじゃないかなっていうのが。まあ一部には大昌寺のという話もあるんだけど、ただね。そこら辺はお寺の大きさからいってもどうなのかというのものもあるし、はっきりしたことは私自身もわからないんですけどね。ただ砂川の方から来る人は、今の川崎街道の入り口の大和屋さんという家の向こう方が、細い道があるんですよ。それがあいの道というのでそこから入って、細い道だったんですけど高幡の方へ向いて行ったというのが。それとバス停なんですけどね。高幡の方からバスが出てくると、今ご意見あった池田さんのうちの前、安積(あさか)先生と池田さんの間のところにバス停が1つありましてね。それとこっち方は今の本陣の前にバス停があったのを覚えておりますけどね。

ただ大門という名前ははっきり石にも彫り込んであったもので、それなりの由緒がある橋じゃないかなと。日野の場合は大体橋があると名前が付いていたことは付いていたんですよ。金子橋、中の橋、宝泉寺橋と。あと多摩川に行くところなんかは、十何本細い用水があっても全部名前が付いてたくらいですからね。そこら辺がどんなものですか、これからの研究課題だと思いますが。

松本: あの石には名前がないの。参道の、大門通りの石。

猪鼻: には、年号とあれは。私、下手な拓本だったんですけどね、全然そういうような技術無かったんですけど、墨と紙を持って行ってとって来たのが1枚だけ残って。多分市でどこかに石のあれは保存してあるんじゃないかなと思うので、私が拓本をとったときは、昔の万願寺へ行く甲州街道の、市の資材置き場があったんですよ。そこに全部外した石を持って行ってあったものでね。そこでとってきたんですけどね。

司会: 青林堂というのがお菓子屋さんだったわけですよ。で、何か青林堂の知恵子さんでしたっけ、お聞きしたら、昔そこでお菓子を買って、それを持って高幡のお不動さんに行く、仲町のこの本(注:『私たちの町仲町』)の中にそんなことが書いて

あったんですけれども、そういうのはお聞きになったことはありますか。

猪鼻：そうね、私なんか小さいときまではお菓子なんかも売っておりましたですけどね。先日青林堂で使っていた焼き版というのを、猪鼻さん持っていてほしいなんて言って、私のところへ持ってきたからお預かりはしてあるんですけどね。

松本：それであの、青林堂ってああいう字だった？

猪鼻：そうですね。あのうちを壊すときに、いっぱい菓子を入れる箱なんかに、私なんかも実際それを見ておまして、そういうふうに書いてありましたね。

司会：それではちょっと休憩を入れます？ どうですか休憩。じゃ今から、ちょうど10分からまた再開したいと思いますので、ここで休憩をとらせていただきます。

————— 休 憩 —————

司会：それではお待たせいたしました、後半の部に移りたいと思います。これは皆さんにお配りした用紙で、＜写真2＞から入りたいと思います。先ほどは戸高さんからお借りした写真をもとにしてやりました。これからはまず馬場一衛（かずえ）さん、今日本当はお出でいただけるはずだったのですが、ちょっとお仕事の関係で急きょ欠席ということなんですけれども、一衛さんの息子さんの元基（もとき）さんを通じて、非常にたくさん写真を提供していただいています。そのうちの＜写真2＞＜写真3＞＜写真4＞。で、ここ、＜写真4＞のこの右側の方が一衛さんになります。一衛さんが高校の時の写真なんですけど、実は町並みということで皆さんからお借りして、これ人物像ということではなくて、この後ろ側ですね。この町並みをとということだったんですけれども、皆さん写真を展示しておりますと、人物に対する関心というのはかなり高く、いろいろ情報を教えていただいたりしています。



<写真2> 馬場商会1958
昭和33(1958)年 馬場一衛氏所蔵



<写真3> フラフープをする少女
昭和30年代 馬場一衛氏所蔵



<写真4> 高校生時代の馬場一衛氏とふたりの友人
昭和30年代 馬場一衛氏所蔵

で、こちら側の、左側の方は八百屋さんですね。おわかりになりますよね。今日ちょっと馬場さんに直接その辺をお話していただくかなと思ったんですけど、お近くの加組ということで志村さんとか山本さん、いかがですか。

松本：とこちゃんっていう人だよな。

志村：八百屋さんをやってた桃井さんだと思う。

山本：今ハイヤーの運転なんかをやってる。

松本：とこちゃん、とこちゃんって言ってるのは、何と言ったかな、正式な名前。
桃井。

司会：こちらの方は、真ん中の方がまだ不明なんですけど。

山本：真ん中の方がちょっとわからないんだよね。

司会：いわゆる学校のお友達という感じですけどね。

松本：真ん中が一衛ちゃんじゃないの？

司会：こちらですね。

松本：え？それが一衛ちゃん、ええ？

司会：こちらが一衛さんの妹さんです。妹さんのお名前が。

志村：はるえさんとか。

山本：はるえさんかな。

司会：あつこさん。小川あつこさんというぐらいしか教えてもらわなかったんですけど。お近くの方はおわかりになるかもしれませんね。（注：この座談会の後、馬場一衛氏の母花子さんより、あつこさんではなく、末娘のきよみさんであると教えていただいた。）この、ちょっと飛びますけど、このあつこさんの後ろに、この辺にパチンコ屋さんがあったという情報が。

松本：日野屋だ。今あれになっちゃってるな、薬局に。

池田：今の薬屋さん、あそこのところにあった。

真野：薬局というと。

松本：豆腐屋の隣。

司会：で、ここのパチンコ屋さんを実際にお使いになった方はこの中で。

山本：あります。1個ずつ入れるんです。

松本：昔のことだからね。1個ずつ入れるんだ。

司会：真野さんは。

真野：やりました。

司会：真野さんもなさったそうです。で、ある方は何か子供の頃、遠足の前にお父さんがここでパチンコをやって景品をもらって、それを遠足のときに持って行ったというようなお話をなさった方もいました。で、こちら側なんですけど、これが振興組合ですか、こちらが。で、この松、木がありますけど。

池田：乾物屋があったよ。天野さん。天野さんの隣に土方という菓子屋があった。その裏が万谷さんで、ずっと来るとその青林堂になるわけ。だから今の真野さんのところは貸していて、八百屋さんがいたんですよ、あそこに。

司会：真野堯（たかし）さんが大屋さんだったんですってね。

池田：それでお父さんが小学校の小使やってたから。

司会：はい、じゃあちょっと次にいきます。ここは金子橋なんですけれども、この写真の井上ボタンのちょうど影になってわからないんですけれども、ここの情報をお持ちの方。

志村：石坂菓子屋。

司会：菓子屋はこちらですね。

池田：その菓子屋の間に娘さんか何かがお店をやっていたんですよ。

志村：そうそう、鳥の餌なんか売ってましたよね。

松本：ああ、キヨちゃん、石坂。

池田：で、その隣が床屋さんで、間をいくと日盛倶楽部（にっせいくらぶ）だったんですよ。

志村：そうそう、細い道を入れていくの。

司会：道があったんですか、で、並木さんですか。ここが坂本さん、理髪店ですね。そうすると今ちょうどこの角に桃井ビルですか、こんなふうになってしまっているん

ですよ。坂本さんは裏の方に。

渡辺：日盛倶楽部って何ですか？

松本：劇場でしょう、劇場。映画館をやったりしていたでしょう。

池田：でも私なんか知ってるころはもう、みんな部屋になっちゃったよ。

松本：だからこういう格好の、それ真ん中に通路があってね、両側にこう。

池田：私が 14 歳のときかね、あそこに産経新聞で日野の販売をちょうど手伝った人がいたの。そこで私の中学 1 年のときに新聞配りやりたくて、行ったらやらせてくれたんだけど、全部責任持たされるわけ。日野の駅まで行って新聞持ってきて、全部整えて、配って、集金して、八王子に持って帰って、八王子まで運ばなければならなかったんで、いやでやめちゃったんだけど。そのころだから。

松本：だからもうあそこは、そういう映画館やめてから、真ん中に通路があって土間でね。岩木だとか、あと原田なんて牛乳配りとか、それがいたんだ。

山本：岩木さんもいたんだよね。

松本：岩木がいたんだ。

真野：日盛倶楽部は、よく見に行きました。

松本：ああ、真野さんなんかの時代だな。

真野：はい。で、今でも子ども心に思い出すのは、桂小五郎という芝居をやったんですね。そうしたらショックを受けましてね、今もって覚えていますけども、何か処刑される場面で、ひざの上に重い石を乗せて、そういう処刑の場面が芝居の中にあっただんです。やはり子供心に、そういう面ですごくショックを受けたことを覚えていたんですが。日盛倶楽部は近かったものですから、よく行きました。それからあと行きましたのは、八坂神社で小屋掛けがあったんです。

池田：小屋掛けもね、日野オールスターとかいう野球チームがあったんだよね。それで資金稼ぎに呼んだりして。

真野：それで後ろの方から幕を開けて入り込んで、ただで見たんです。

池田：それでまたやぐらを作ったのは田倉、あそこのね。

松本：田倉さんか、井戸屋をやってた。エッチちゃんか。

松本：今の石坂菓子屋の、日野歯医者 of 隣側が今菓子屋だよね。あそこが空き地があって、あそこでよく芝居を俺なんかは見に行ったよ。

池田：あの裏側。

松本：甲州街道の。

谷：道ができるときに。

松本：ちょうど空き地だったんだ。歯医者 of 隣、今石坂菓子屋があるわけ。石坂菓子屋はもっと下側（しもっかわ）にあったんだよ。ね、知らない？それであそこは空き地だったんですよ。あそこで芝居をやって俺なんか見に行ったよ。みんな周りの囲いはヨシズだよ。

司会：面白いお話が出たんですけれども、今ここ金子橋から次に、森町あたりなんですけど、＜写真6＞＜写真7＞＜写真9＞ですね。ちょっと見ていただきたいのがこれ、「森町町内会熱海旅行出発の朝」これ、志村さんがきちんとういうふうに写真の裏に書かれているんですよ。これ、雨の日だと思う。ここが八坂さんでよろしいんですよ。八坂さんの門。



＜写真6＞森町町内会熱海旅行出発の朝
昭和30(1955)年 志村章氏撮影



<写真7>八坂神社前の通り
昭和31(1956)年 志村章氏撮影

松本：ああ、八坂神社の前。ああ、本当だ。

山本：ここに集合して行ったんだよね。

司会：で、すごく気に入っているのがこの、ちょっと大きくしないと。

池田：サザエさんだ。立川観光。

山本：立川バスか何か。

司会：ここへ「サザエさん」って書いてあって、脇に何かサザエさんの絵が入っていますよね。この辺のお話なんか、どなたかしていただけると。

志村：もうサザエさんですよ、観光バスで、バスはサザエさん。

司会：観光バスだったんですね。

松本：そうですね、観光バスで行ったんでしょう。

池田：観光バスなんてなかったよ、あの当時は。全部乗り合いバスだよ。

志村：観光バス、何か町内で手配すると必ずサザエさんのバスが来てましたよ。

松本：じゃあ立川バスか何かかな。

池田：立川バスです。

司会：これに乗られた方はいらっしゃいます？

志村：私なんか乗ったような。

池田：俺、木炭車は乗ったことあるよ。

司会：それで、実はここにどなたか写っているんですけども。

山本：真野さんだ。

松本：真野さん、行ってよ。

司会：でよろしいですか。

志村：真野さんが写ってる。

司会：見えますか、ちょっと大きくします。これなんですけど。

松本：こっち向いてる人？

真野：うちのお袋がいるね。それ。

司会：あ、こちらの？じゃ、真野さん。真野さんと志村さんはちょうどあれですか、コニカで一緒されていらっしやったんですね。それで同じ森町になるんですか。ここにほかの方でお知り合いが写っていれば教えていただきたいんですけども。いらっしやらないですかね。

松本：あの、こっちに、塀のところにいる人は、あれは運ちゃんかね、白い帽子をかぶっているな。

司会：こちらですね。それで、こっち側の通りというのはなかなか写真がないものですから、ここが、人が写っているんですけど、この辺に何があったのかなというのが。

山本：アタリヤ。

松本：いや、あのあれからいくと、アタリヤよりも下じゃないかな。

山本：晝屋だ。

真野：平野さんがあったでしょう。平野さん、あの八百屋さん。

松本：それはどこにあった？ボタン屋があそこにできなかった？井上ボタン屋。

山本：あ、さっき写ってたの。

松本：こっちへ来なかった？

山本：いや、こっちへ来なかった。

松本：斜めに撮ってるから。

司会：図書館で持っている住宅地図というのが、昭和 37(1962)年なんですよ。ですからそれ以前のというのがないもので、ここら辺の通りの情報があればと思うんですけど。

真野：これ、日野駅の北側でしょう。八坂神社の前。

志村：アタリヤとかいう。

松本：アタリヤは正面。まっすぐこっちだよ。

司会：何でアタリヤというんですか。

真野：お茶屋さん。

谷：その前は肉屋なんですよ。

松本：いや、肉屋はアタリヤと違うよ。アタリヤは今狭くなっちゃって、パーマ屋の2階か何かでやってべえ。あ、ラーメン屋だ、あそこは。やっぱりあれじゃないの、これか何かやってたんじゃない？あれがわからない。アタリヤ。的、ほら。

山本：花屋もあったな。

志村：あったでしょう。

松本：あれはちょうどあそこの錠口（じょうぐち）ぐらい。ノブちゃんところの。

志村：ありましたよね、花屋さんがね。

司会：ちょうどこの<写真7>の写真の横なんですけど、ここが八坂さんですよ。で、ここがこんなふうになっていますよね。

松本：でかいケヤキがあったんですよ。

司会：あ、やっぱりケヤキが、そうですか。このレンガは昔のあのレンガではないんですよ。

真野：違うと思います。

司会：ここに写っているのは志村さんところの下のお嬢さんですよ。

山本：あれがお母さんじゃないの。向こうを向いてるのが、違うかな。

司会：昭和31(1956)年で、で、ここら辺にちょっと町並みが写っているんですけどね。

志村：あれは氷屋？氷の看板じゃない？

松本：そうするとあそこいらは、この角度からいくとモリヤあたりだなあ。

山本：森屋か何か、あそこら辺だよ。

松本：間がもうちょっとこっち。

山本：もうちょっとこっちが。

真野：この塀はこちらから見れば左側でしょう。今鳥居のある方。だから逆ですよ。反対側は仲町の方で。

山本：消防小屋があって。

池田：この写真はこっちへ向いているわけ？

松本：いやまだ仲町まで行かないよ。

真野：金子橋とか。

司会：この辺の情報をまた思い出していただいたら、あとで教えてください。それで次に、あ、これも今の部分で。

池田：左が森屋のちょうちん屋があった。

司会：実は皆さん、ちょっとまたここでお聞きしたいのがあります。飛ばします。これちょっと山本さんにもお聞きしたんですけど、こんなのがあるんですよ。ここに「理容やまもと」って、山本さんのお父さんがなさっていたわけですけど、これが旧甲州街道ですよ。ここ。この前でちょうどこういう仮装行列ですよ。もう1点同じようなのがあるんですけども、これもそうです。こちらは竜宮なんですよ。これを実際にごらんになったという方がいらっしゃればすごくうれしいんですけど。



<写真 118>



<写真 119>

昭和 30 年代 志村章氏撮影

真野：この位置は消防小屋の前のところですね。

山本：あまり記憶がないんですけども。

松本：そんなすごいのがあったのかね。俺はこの辺きり撮ってないんだよね。

真野：これは古いですよ。

松本：いやいや、市制祝いでしょ。

山本：でも、うちが2階家になっているから、そんなに古くないですよ。

司会：昭和30(1955)年過ぎているんですね。

松本：市制祝いの仮装行列じゃないの。

司会：松本さんが撮られた市制祝いのパレードがありますよね。パレードのときにやっぱり一緒にやっているんですかね。

松本：同じだと思うよ。俺はあっちまで行かない、俺はここのところで撮ったから。

山本：2階家になって、向こうがほら大屋の家だもの。

松本：でもこんなすごいことやったのかなあ。惜しいことしたなあ。

司会：それでもう1つあるんですけど、これ(<写真26>)なんですが。ちょうど反対にかどやさんという菓子店がありますよね。



<写真26>

昭和30年代 志村章氏撮影

松本：あそこが真野さんのところだよな。

真野：今の花輪病院のところですよ。

司会：ここに萱葺きというか、麦わらというか、これが鍛冶屋さん。

山本：これが鍛冶屋の屋根。

司会：その前でこういうパレードをしているんですが、外国の方もいらっしゃいますよね。ここに外国の車もあるんですけど、これを目撃した人がいらっしゃれば。

松本：この太鼓はちんどん屋？

司会：いや、わからないですね。これ、志村さんがお撮りになっているんですよね。ちょうど志村さんの家の。

松本：ちんどん屋だな、あれ。

山本：ちんどん屋みたいだね。

司会：ここ、こういう何というんですか、これ、船。

松本：船だな。屋形船。

司会：けっこう豪華ですね。

山本：これ2階から撮ったのかな。前のところ。あそこから撮ったらこんな角度にならないな。

真野：上から撮ってますね。

真野：じゃあ鍛冶屋の上からか。

真野：手前の家は鍛冶屋？

松本：屋根がこういうわら葺き。わら葺屋根。

真野：その前は？

松本：甲州街道です。あの屋根は屋形船。

真野：屋形船だね。

山本：屋形船に何か仮装行列みたいな、何かわからないけど。

池田：駐在所の隣あたりから撮ってるんだね、この写真は。今アパートがあるじゃ

ん。

松本：隣の、鍛冶屋だから。

山本：あそこの家です。そう、今アパートになっている。

池田：あそこから撮ってるよね、これね。

山本：その隣の隣が麦わら屋根でしたからね。

池田：井上さんのところか。

真野：キヨちゃんの家。

司会：ここが、この方が高橋さん。

山本：駄菓子屋さんだったんです。

司会：ちょっと話が飛んでしまいました。すみません。これで森町あたりがちょっと今、ここまで来たんですけれども、ちょっとこの辺で変わった写真を幾つか皆さんに。

これ、小学校ですね。これ一小で、安西清さんからお借りしたやつです。この<写真 74>とか<写真 75>、ここに今日お出での方で写っている方はいらっしゃいますか。昭和 26(1951)年。51年にいらっしゃった方。何か表彰式みたいなんですけどね。



<写真 74>



<写真 75>

日野小学校秋季大運動会 1951

松本：最後のあれだな。

司会：この校長先生が。

松本：小池さん。小池さんじゃない。

司会：いや、私はわかりません。

池田：多分小池さんかもしれない。

志村：頭のがりが。頭、白い人でした。

池田：多分、小池さんかもしれないね。

松本：ちらっと俺見てそうかなと思った。51年というとなんか。小学校。昭和何年。

司会：昭和15(1940)年生まれで11歳。まあ、ちょっとこの中にはいらっしやらなかったですね。次、これなんです。すごく私、びっくりしたのは昭和20年代に、こういうチームのユニフォームを持って、バットを持って、すごく日野のこの辺の人は裕福だったんだなあと。



<写真 211>南多摩少年野球大会優勝1951頃

池田：これ小学校？ 小池嘉一さんだ。

真野：小池先生。

志村：校長先生。

池田：その隣が、左、それがね、確かスポーツの方をやっていたんですよ。一番左が古谷先生ですか。そんな感じがする。

松本：これは年代がやっぱりわからないのか、子供が誰だか。

司会：これは安西清さんのお兄さん、あ、先生が撮られたと言っていましたね。南多摩少年野球大会と、これを大きくすると見えるんですけど。

池田：私もやってたけど。

司会：そしてまた飛んでしまいますけど、今度はこんな写真があります。これはぜひ。日野小学校の創立 80 周年記念の写真なんです。昭和 28 年、1953 年ですかね。私が知っているのはここに古谷栄さんじゃないかな。ここに佐藤仁さん、違いますか。下佐藤さんじゃなくて、ここが校長先生ですかね。そうすると有力者の方というか、その方たちがいらっしゃるんじゃないかと。でも下佐藤さんの、違いますかね。ここに写ってらっしゃるといふ方は、この写真を。



<写真 37> 日野小学校創立80周年記念プール完成記念写真1953

池田：見ればわかるかもしれないな。28年だったら。

松本：これはもう今、現在の場所だね、学校は。

司会：そうです、はい。昭和 28(1953)年です。

松本：これはプールだな。プールのところで撮った。プールの中で撮ってるんだな、これ。

司会：そうですね。

松本：ちょっとここに生きてる人はいないな、大抵な。

司会：皆さんいらっしゃらないですかね。もしかしたらお父さんとかお母さんとか、写ってるんじゃないかなという気がするんですがね。

真野：この右の方にいるのは有山亮（りょう）さんじゃない？ 右から 3 人目の、その隣。当時の町長だと思います。

池田：有山崧（たかし）さんのおじさん？

司会：お父さん。

真野：有山亮さん。

池田：そうかもしれない。

真野：有山さんですよ。

池田：そうすると古谷剛次郎（ごうじろう）さんもこの辺にいるよね。

真野：当時の町長。（注：昭和 28 年当時の町長は齋野次郎氏）

司会：もし、この写真もありますので、また情報の方をお知らせください。今度は中学校にまいります。これは第 8 回秋季運動会。1955 年、昭和 30 年ですね。この時代にすごく、これ、男の人なのかなと思ったんですけど、みんな学生さんみたいですね。



<写真 142>



<写真 143>

一中第8回秋季運動会 昭和30(1955)年 松本保氏撮影

松本：中学生ですよ。

池田：仮装行列やったことありますよ。私、女形になって。

司会：ここに、じゃあ写っていますか。

池田：昭和29(1954)年に卒業してますから。

司会：もう1つ。実は、こちらは男性ですね。これ、時代を反映していると思うんですけども、これプロレスラーですかね。

松本：これ、私ね、1期生なんですよ、一中の。それでね、それが5月の7日だから8日から始まったんですよ。本当は4月1日だけど。それで6・3・3制が敷かれて、それで俺なんかその秋に、先生が仮装行列をやれっていうわけだったんだけど、結局俺なんかの1回目の時にはやってないんですよ。で、俺もコニカへ行ってたり何かした関係で、学校へ行くと、運動会へ行くとこれ、写真を何枚も撮ったんですよ。これ後ろ側が桑園なんです。ということはまだ校舎が建ってないとき。

司会：ああ、運動場。

松本：ええ。グラウンドっていってもね、まだほかにもあったよね。がらがらのところもあるし。

司会：実は松本さんの若かりし頃の写真も。



<写真 136>

町民運動会1952
昭和 27(1952)年撮影



<写真 138>



<写真 137>

日野中学校創立5周年秋季大運動会1952
昭和 27(1952)年 松本保氏撮影



<写真 139>

松本：これ俺。頭見て、頭。

司会：ここへ出てるのが加組というふうに。

松本：これは青年団のリレーなんです。こんなのを撮ってあったんだ。

司会：それで、もう一度、これが面白いんですよ、さすが日野ですね。

加地勝（豊田）：おお、やってる。

上野さだ子（三沢）：新選組のパレード。

司会：ここに写っている女性ですよ、この女性の方が今日参加していただいていたら面白いと思ったんですけど。

松本：わからないなあ。

司会：これ、新選組ですよ。

松本：なるほどね。

加地：だんだら模様だから新選組だよ。

司会：これが昭和 27(1952)年ですよ。中学です。中学校が創立 60 周年でしたっけ。ここで建て替えがありますよね。

池田：平成 21(2009)年に完成かな。

松本：だからこれは今の福祉センターのあそこ。昔は一番、日野の発祥の地の、第一小学校ですよ。

池田：校庭の真ん中にケヤキがあったんですよ。

松本：そうそう。

司会：大きいケヤキが。

池田：だから運動会という、そのケヤキを回りながら走るんですよ。

司会：それからこれもそうですね、これも松本さんから出していただいたやつですよ。

松本：あれがほら、普門寺のケヤキね。もう今はないけど。それで今はこの建物が昔青年学校っていう、校舎だったんですよ。今はもうほとんど普門寺の方の用地になっちゃって、だから塀になっちゃってるけど、今福祉センターとかあそこになっちゃってるけど。

司会：ここに写っているのはアオキじゃないですよ。

松本：違うね、アオギリはあの象さんがいる隣あたりにあったと思いますよ。あの

アオギリは昔からあったらしいんだね。うちのお袋なんかも覚えていたもの。

司会：そうみたいですね。その写真もあるんですけど、ちょっと今は飛ばします。

それで今度は元に戻ってこれです。これはもう信じられない光景ですね。これが鉄橋ですよね。今ちょっと見るともうこんなふうになっちゃっていますけど。



<写真 116>



<写真 117>

川遊び 昭和 30(1955)年前後 志村章氏撮影

北村澄江（郷土資料館）：水の量が全然違う。

松本：このころね、すごい一時あそこが深いときがあったんですよ。それで横町の端場（はしば）の、河野さん、誰が死んだかな、河野さんというところの子どもね。何人も死んだ、俺なんか覚えてますよ。みんな上がれって言って上がってね、あと大人が潜って行って見つけて、何人も死んだところなんですよ。でもここはもう浅いな。

司会：ここへ影になっているのはこれ、潜っている人がいるので、これは志村さんからお借りしているんです。それでもう1点、これと同じような。

松本：これはもうテトラポットができてんからな。

司会：ああそうですか、だから。これはもう本当にこう、下流の方までずっとう、一面。

松本：それで夕方会社の帰りにね、みんなオリエントだとか日野自動車とか、そういう人が帰りにね、一浴び来るんですよ。すごかったんですよこのころ。

池田：魚がいたよ。すごく。

谷：それとこの左側の方に鉄塔の跡か何かのレンガ積みがあったんですよ。対岸で。

松本：昔のピーヤの鉄塔のあれがね。高圧線の土台。

谷：それを昭和 40 年ぐらいに爆破処理したんですよ。

真野：当時は学校にプールがないですからね。全部学校の授業も多摩川で泳ぎました。ただ、松本さんが言われるように事故が多くて、蛇籠（じゃかご）って、石を詰めて増水のとときに防いだ蛇籠ってというのが、その下に潜っちゃいますともう生きて帰って来れないです。そういう事故が大分ありましたね。今日も死んだ、明日も死んだってというような感じで。

山崎：それでもみんな行ったんですね。

松本：でも暑いから行かなきゃしょうがないんだよね。

山本：前は二丈（注：一丈は十尺。一尺は約 30.3cm）とか何かいって、深かったでしょう。

松本：一丈五尺なんていって。

山本：一丈五尺だとか二丈だとかっていう。

真野：私も水泳はここにいらっしゃる志村さんのお父さん、志村章さんにこの多摩川で教わりました。かなりスパルタ教育をされて泳げるようになったんですけどね。ずいぶん溺れました。

松本：だから近所のガキをみんな連れていってね、今のこのテトラポットは前は本当に蛇籠でこうなって、座っているとね、後ろから行ってみんな突き落としたんですよ。

山本：そうなんです。でも助ける人がそばにちゃんといて、事故はなかったんですけども、そういう我々も落とされて泳ぐようにできたんですよ。

松本：だから私なんか昭和 20(1945)年の何とか台風だったかな、八高線がこれやったときね、あの翌日にね。あ、翌日じゃないや、そのときだったかな。増水したときに、本当に危なく死にそうだったんですよ。

多摩川の鉄橋を渡って来てね、途中で中州があるんですよ。その鉄橋に、こういう今でもありますけど、それを渡って行って飛び降りて、真ん中にまたいい丸太があっ

たんですよ。それを5、6人で取りに行つて。で俺もガキ大将だったから一番先頭にいてね。5人ぐらいで行つたんだけどみんなおっかなくなつて先に逃げちゃつたんですよ、浅いうちに。俺がもうやばいと思つたときにはもうこのぐらいだし、それでもうどうしようかと思つて。それで丸太も放しちゃつたから、抜き手で日野に、日野の方はすごいんですよ、波が。で、立川の方が緩やかだから立川の方へ行つたんだけどね。日野橋の辺まで流されて、もうだめだつてめっちゃめっちゃやつたらね、ヨシのあれが引っかかつて、ぱつと見たらもうこのぐらいでね。ああ、そのときにはもう水を飲んじゃつてね。で、泳ぐつもりで行つてないから、その頃はパンツなんてないからふんどしなんですよ。

池田：ふんどしもしてなかつたよ。

松本：それで泳ぐつもりはないからフルチンで行つて、それで小さい奴らが着物なんか持って来て、幾人かがね、本当にもう心配したんです。そのころ消防署なんてないしね。本当にそれでね、土手のところに逆さ、下向けてみんな押っぺしてくれつて言つて。出ないんですよ、飲んじゃつたやつはね。もう腹パンパンで死ぬ思いをしたことがあります。

司会：本当によかつたですよ。もう、助かつたおかげでこういう写真が見られて。

それではこの次は横町の安西実さんが、清さんのお兄さんが撮影していただいた写真（<写真8>）で、こういうのがあるんですね。これが安西さんのお宅なんですよ。安西さんの屋号っていうのは、やっぱり金子屋でよろしいですか。何か9代とか、もうそのぐらい続いているお宅だそうです。それでこれは今のところですね、稲茶（いなさ）のあるところですね。で、もう1つ（<写真32>）ここに、これはすごく、ちょうど写真展、パネル展の準備が終わったあとに見せていただいて。



<写真8> 雪景色の旧甲州街道と横町



<写真32> 雪の宝泉寺

昭和30(1955)年前後

志村章氏撮影

安西実氏撮影

松本：あれ、閻魔堂か。

司会：閻魔堂で鐘楼殿、ここが本堂。これはあれですよ、イチョウですか、ケヤキですか。ここをこんな角度で。

真野：イチョウです。

司会：ああやっぱりイチョウでよろしいですかね。で、ここにこれ稲畑って呼ぶんですか、これがね、ありますよね。美しい光景です。これでもう1つ（＜写真35＞）こんなものがあるんですよ、この雪の日の。ここをずっところ、旧甲州街道で鉄道を渡るようになっていて。非常にいい写真だと思いますね。



＜写真 35＞

雪の日の宝泉寺脇旧甲州街道

＜写真 36＞

雪の日の大昌寺山から左宝泉寺、右八坂神社

昭和 30(1955)年前後 安西実氏撮影

で、もう1つ（＜写真36＞）は、あとやはり雪の日に撮っていただいたやつがありまして、これはやっぱりあれですかね、宝泉寺の裏ですよ。今の矢の山公園あたりですか。で、これはやっぱり真野さんの話にまた戻っちゃうんですけど。

松本：八坂神社だなあれは。

真野：そうです、私の家です。

司会：もう移られたんですね。これ、そうすると30年代ですかね。昭和。そんなところですかね。で、これが横町で、今度が＜写真10＞です。これはもう松本さんがお撮りになったものですね。ここが用水でよろしいですね。この、こことか、あとく

写真 16>です。この辺のところのエピソードというか、松本さんの方からお話いただければと思うんですけれども。



<写真 10>

日野駅前から甲州街道東方面を望む1951

昭和 26(1951)年 松本保氏撮影



<写真 16>

日野駅 1951

松本：あの、あそこの一番手前のところに売店があって、あの下に子どもの三輪車があるんだよね。昔は本当にのどかだったよね。それから右側の、白くあれは HINO STATION とか何か英語で書いてあって。今はあそこが通路になっちゃっていますよね。それでホームも短かったから、あそこ階段であって、階段のまんまで。今は甲州街道をまたいじゃっていますよね、あんなふうだね。

司会：何か立川方向から来ると、車内アナウンスが、次は日野駅だから前の方にと
いうんですか、何かそんな。

松本：ドアが開かないときがあった。

谷：後ろの 2 両は扉が開きませんか。今は駅のところは何回かしか乗ったことは
ないんだけど、ちょうど看板のところからまっすぐ行って突き当たると、御影石の階
段がずっとこうつながっていて、そこがホームの一番端なんだよね。そこから旧坂の
方にホームがあったから。多分昭和 40 年代ぐらいだと思っただけ、階段の位置が
変わってホームが延びて甲州街道に出てきたの。

司会：これが日野駅ですね。日野駅に行く手前の写真 (<写真 18>)、これ志村さ
んがお撮りになったやつなんですけど。



<写真 18>

甲州街道-日野駅に向かう1956
昭和 31(1956)年 志村章氏撮影

志村：うちの前だ。消防小屋。

松本：ああ、そこ消防小屋か。

司会：「理容やまもと」って書いてあるので、ここが山本さん宅かなと思ったら、
実はこっちなんですね。

松本：そこは消防小屋だ。何か半鐘がある、あの半鐘今だったら盗まれたな。で、
はるみだっけあの飲み屋。

志村：そこにはるみがあったんだね。

司会：それはあれですか、この寿司屋さん。

志村：手前です。隣り。

松本：消防小屋の、中華って書いてある

司会：ああそうですか。それでここって自転車預かり所。

松本：曾我さんでしょ。

池田：あれは曾我さんじゃないの。

谷：曾我さん。

司会：ああ違うんだ。ここが洋品店ですよ。ここは違うの、曾我さん。ああ、たばこ屋さんのところですね、今の。

池田：その向こうに足立さん。

司会：じゃあここか。

松本：そうそう。

池田：それからそのあと、お菓子屋さんになったの。

松本：そう、中村屋ね。

佐藤：魚屋があって、中島さん。

松本：ああ、中島魚屋ね。

司会：ああ、ここも触れておかないと（＜写真9＞）。そうなんです、それで見に来ていただいたのが今の内野さん。これがかつての内野さんで、この日乃出屋さんというのに前は惑わされたんですけれども、このくるみ屋さん。このあと日乃出屋さんからくるみ屋さんになっていて、昭和37(1962)年の、その住宅地図にはもうくるみ屋さんってなっていたのでわからなかったです。



＜写真9＞ 昭和30年代 安西美代子氏所蔵

池田：日乃出屋さんは菓子の卸屋だったんだよ。

松本：その辺にあったなあ。

池田：ここにあったんですよ。

司会：で、ここにもうずっと花屋さん。この前見に来ていただいたんですけど、伊藤さん。すみません、大きくします。ここですね、この方が。前はお母さんがなさっていたということなんですけれども、というような話をお聞きしました。

谷：今の位置の、この日乃出屋さんの右2軒隣が小島さんの自転車預けがあった、駅側だった。

司会：ああ、こっち側。で、日野銀座というのをお聞きしたんですけども、こちら辺が大分変わっちゃったんで。

志村：日野銀座はその裏だよね。

池田：今のあそこのビル。後ろ側のビル。あそこの道の横から入り出して一番最初の角がベッティ写真館があったんですよ。その奥に八百屋だか何だかがあって、その隣が肉屋で、右側に美容院があって。

松本：飲み屋があったな。

池田：氷屋もあったんです。

志村：氷屋もありましたね。

池田：福島とか何とかいう氷屋もあった。

真野：この裏の方に小沢クリーニング店、その裏にちょっとした旅館みたいなのがあったんです。覚えていませんか。それで終戦直後、ここで米軍の兵隊さんと日本の女の人が心中事件をおこしたんです。それでその現場写真を撮るのに、当時は警察はあまり写真、カメラなんかはなかった。私のところへ頼みに来て、私とその写真を撮ったんです。トイレの中で女の方が亡くなっていた。で、もちろんフィルムごと警察に渡しましたけれども、私としてはちょっといやな思い出。あなたは写真を撮る、コニカに勤めていたから写真を撮るらしいという形で警察で聞き込んできて、僕がカメラを持って飛んで行ったんです。そういう思い出があります。

松本：鑑識課じゃん。

池田：でもすごいよね、日野にも銀座があったんだものね。

渡辺：日野銀座があったんですね。

谷：あれは流行りだったらしいですよ。銀座ってつけると。

松本：あれは細野さんがやったんでしょう。

真野：そうですね、細野さんですね。

谷：銀座だって名前を付けると人が来るっていうんで、全国的に銀座ってつけた。



<写真 17>

日野駅から日野坂方面を望む1956

昭和 31(1956)年 志村章氏撮影

真野：これは懐かしいなあ。

司会：これは日野駅の西側ですね。

松本：これはいいね。

真野：それであとで出てくると思います。その右が田んぼになっていますね。その田んぼが八丁田んぼ。写真を出しておきましたけれども八丁田んぼという、もう一面の田んぼです。

池田：かなり湿地帯だったんです、あそこはね。ずぶずぶの田んぼだった。

真野：この写真はまだ新しいと思いますね。

松本：日野交通もあるからね。

司会：昭和 31(1956)年。

池田：この甲州街道はね、両サイド砂利なんだよ。

松本：最も、両サイド砂利だったんだよ。終戦後は砂利だった。

池田：真ん中にアスファルトで両サイドは砂利だった。

真野：それで左側はほとんど田んぼで、ここに川が流れていて、山下堀へ続いていたんですね。

池田：山下堀へ続く水が小西六から来ていたんですよ、あそこまで。小西六からずっとこっちを流して、あの木のところから落ちてずっと流してたんです。

山本：コニカで水をたくさん使ったからね。

真野：銀の入っている水を流しまして、今で言えば。

池田：それがあそこの、すくって再生して銀を拾ってる人もいるんだよね。

真野：今でいえば大騒ぎです。

志村：だから今そこの土地の、入ったところに細木さんの経営しているそろばん塾があったんです。そこの後ろの方にため池みたいに水があって、そこのところで遊んだ覚えがあります。

松本：だから左側は窪地で、水が抜けなかったんですよ。粘土で、雨が降るとたまっちゃって。

司会：何か冬場ですと田んぼに水を張って凍るんですか。そこでスケートができたって山本さんがおっしゃっていましたが。ここに見えますかね、これ。日野館（ひのかん）、やっぱり日野館でいいんですか。

松本：うん、この上にあったんだな。

池田：入船、立川の入船。寿司屋。

司会：ということは西町の方にいっぱいあったんですか。

真野：私の実家の隣りです。

池田：あそこは寮なんだよね。入船の寮だったんだよね、あそこは。

司会：この日野館、今ほら、日野館（やかた）ってありますよね。それと、ええっと思ったんですよ。これは日野館（かん）。そうですか、わかりました。

松本：旅館とかやってた。

山本：そう、西町のところにあった。

加地：ハイヤー、日野交通のところというのは今、駅のところからすぐ曲がる道になるんですか。

真野：はい、そうです。これが本当なんです。

松本：今は日野館のあれの手前のところが。

加地：そこから入ってくるわけですか。

真野：生協の前。

山本：線路にちょっと沿って行って、まっすぐ向こうに行ったの。

真野：今の生協の前を歩いて行った。

小杉博司（一小校長）：上は三小ですかね。崖の上。

司会：ああ、こちら。昭和 31(1956)年。

松本：三小かもわからないな。その三小の前はあそこ、高射砲陣地だったんだよね。

司会：あ、言っていましたね。ここにケヤキがありますよね。これ今もあるケヤキじゃないんですかね。

松本：今あったっけ？

司会：このケヤキ。東光寺の小学校の方からこのケヤキが。

池田：あれは山をいじってないからあると思う。

志村：七ツ塚のところ。違う？

松本：いやいや七ツ塚は。

司会：その手前のところですね。

志村：違うって、違うそうです。

奈加島：これ当時、日野交通ですか。何台くらい車が。

池田：4台くらいです。

真野：この甲州街道は今の地点から、矢印のところからコニカの、八王子の高倉町まで人家が1軒もございません。

司会：何か日野自動車に勤務されていた方が仕事を終えて、日野自動車から一気にここからビューっとう、自転車で一気に降りられたという話を聞いた、そのぐらい交通量もないし。

池田：車なんてだからこの路地からね、両サイドを見ないでこの道幅を何歩で渡れるかって飛び出しても車は来なかった。

谷：でも昭和30(1955)年でしょう？昭和30年っていったら車は走っていると思うよ、これ。写真で見れば。

山崎：じゃ、いるところを狙って撮ったんですかね。

谷：昭和25(1950)年ぐらいで1日の交通量が3,000ちょっとだったんですって。だから写真に写る車が少ないんだよ、本当は。

司会：朝方なんですね。

谷：通勤時間なんだね。でもこのあとね、福生の方から戦車が来たんですよ。

奈加島：あそこに写ってるのはバスですか、何ですか。

真野：私なんかもこの道を歩いてはコニカへ通いましたけども、コニカは火災ばかり起こしてしましてね。それで下の、今は坂の下の森町あたりのポンプ、ポンプって

いっても木の車輪で、皆でこうやってあおぐやつなんですけども、これを日野坂をずっと行くのに、三輪車のあとへそのポンプを付けて行ったんですね。そうしたら日野坂の途中で輪っかが1つ外れちゃいまして。そんなようなことがありましたね。

司会：最後にですね、ちょっともう時間なんですけど、最後にこういう写真（<写真179>）があります。ちょっと見ていただきたいのですが、カラーです。これは昭和37（1962）年。これは戸高さんが就職して間もないころに、スライドから起こしたのでシミとかカビが出ちゃっているんですけども、ここが大門で、ここが戸高さんですね。ここが青林堂、で、小池さん。で、ここがそば武蔵屋。塀があってここが古谷さん。というような。それでもう1つ、これは逆に撮ったんですね。武蔵屋さんね。それでもう1つがこれ、八坂さんのところの、すごく大木がこんなにいっぱいあったんですね。カラーではけっこう貴重な。



<写真 179> 甲州街道南側の町並み1962頃
昭和 37(1962)年頃 戸高要氏撮影

真野：珍しいですね。

司会：ですよ。ということで一通り、すごく強行軍で申し訳なかったんですけども、大体日野宿をほぼ西から東へと歩いた格好となりまして。まだまだお聞きしたいところがあるんですけども、予定の時間を過ぎましたのでこの辺で終了させていただきます。図書館では、先ほどもなかなか皆さんにお聞きしても解決しないと

ころがあります。ですからこれからもそういう情報、今日は眠れないということはないと思うんですけれども、思い出していただいたら図書館の方にちょっとお知らせください。

で、新たな写真というのが結構、お一人ずつ当たってヒアリングしているんですけども、ああこんなものがあるよと、小出しにするというのはおかしいんですけれども、新たな写真を次々に出していただいている方もいらっしゃるんですよ。ですから皆さんも、もしかしたらお家に眠っている写真を図書館の方にお貸しいただければ、これをもとにしてああいうふうに機械的にパソコンに取り込んで、次の時代の人たちに。お孫さんたちとかが昔どうだったのかなというのを調べにいらしたときに、図書館に行けばわかるんだというようなどころまで何とかやっていきたいと。そのためにも発見隊、今日は代表で谷さんにパネラーになっていただいたんですけれども、今日何人かお出でいただいています、皆さんと一緒にそういう情報を整理していきたいと思います。できれば昔の写真と一緒に、今の写真を撮りたいと思いますので、ぜひ昔の写真、どの辺で撮られたとか、そういう情報がわかりましたら教えてください。本日は本当に皆さん、パネラーの方、会場の方、皆さん本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。

渡辺：どうもありがとうございました。長時間のお話。それで今もお話しましたように、皆様にさらにお願いがございます。日野宿発見隊では秋からこの写真を、ここに今展示してあるんですけれども、これだけじゃもったいないということで、「街かど写真館日野」という感じで、町じゅうが写真館になるように、それぞれのお宅の前に50年前の写真をパネルにしますので、それをそれぞれ出してもらって、日野駅から観光客でも皆が、ずっとこう写真を見ながら50年前を同時に見ながら歩けるような形でやってみたいなというふうに思っております。で、皆様が自分の家の前の昔の写真とかをお持ちでしたら、ぜひ提供していただければ、私たちの方でパネルにしまして、それから張り出しもお願いしますので、ずっとそれぞれの家や、50年前のそういう写真をぜひ展示して「街かど写真館日野」みたいな形でやっていきたいと思いますので、ご協力よろしく申し上げます。本日はどうもありがとうございました。

午後4時00分 閉会